



A=行動指標（行動すべきか否かの基準となる値）

$$A=(B1:行動の利益)-(B0:不行動の利益)-(C1:行動のコスト)+(C0:不行動のコスト)$$

コストにはリスクも含まれる。コスト=確率×程度と考えていいだろう。価格や労力などのコストは100%の確率をもつリスクとも言える。もちろん実際には価格や身体的リスクなどを足し算することは出来ないのだからこれは仮想的なものである。

人類学的にはA=行動指標は単一のものではなく、エティックとエミックに対応して2種類（As,Ao）存在する。個々の健康行動は(As,Ao)として座標上に表わされる。

As	主観的行動指標（エミック）	Ao	客観的行動指標（エティック）
As>0	行動しようとして構成員が判断する	Ao>0	行動すべきだと外部が判断する
As<0	行動しないでおこうと構成員が判断する	Ao<0	行動すべきでないとして外部が判断する

(2)・(4)に位置する行動は緊張状態にあり、移動しやすい。その中でも、座標軸に近いものは緊張程度が低い。例えば〈動物塚〉は(4)に位置するが、Aoがゼロに近いために廃止しようとする動きは起きない。左上・右下に離れるほど、緊張程度が高く論争的である。例えば〈女兒割礼〉も(4)に位置するが、As・Aoの絶対値がともに大きいので、長らく論争的となっている。

ある健康行動が(2)・(4)に位置することが「発見」されると、As・Aoは急速に一致に向かう（たいていは議論を投げかけた側に一致する）。例えば〈レバ刺し〉のように食中毒問題などにより公の議論の場に出されると、客観的な利益・コストが問題になる。つまり、政府側がC1oを強調するだけでなく、構成員もB1sでなくB1oを強調することが求められる。